

教育委員会 平成26年度 8月定例会の概要

○日時 平成26年8月13日(水)
9時30分開会 10時47分閉会

○場所 鎌倉市役所 講堂

○出席委員 山田委員長、下平委員、朝比奈委員、齋藤委員、安良岡教育長

○傍聴者 2人

○本日審議を行った案件

1 報告事項

(1) 委員長報告

(2) 教育長報告

(3) 課長等報告

ア 「かまくら教育プラン」平成25年度取組状況について

イ 平成27年度鎌倉市立小学校及び中学校の児童・生徒数及び学級数の推計について

ウ 「かまくらっ子の意識と実態調査」第10集について

エ 行事予定(平成26年8月13日～平成26年9月30日)

2 議案第20号 教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

3 議案第21号 市有地管理に起因する事故による市の義務に属する損害賠償の額の決定について

山田委員長

定足数に達したので、委員会は成立した。これより8月定例会を開会する。

本日の会議録署名委員を朝比奈委員にお願いする。

1 報告事項

(1) 委員長報告

山田委員長

暦の上では立秋を過ぎ、本当に今年は猛暑が衰えることなく、とても暑さがこたえている。7月31日に子ども議会が開かれ、下平委員と齋藤委員がいらっしやっただのでご報告を願いたい。

齋藤委員

小学校の子どもたちと違って、やはり中学生だと大人になっているのだというのが第一印象で、質問等も、学校でいろいろ相談した結果だったのか、洗練されたものだった。環境や教育、防災、産業等、鎌倉の子どもとして成長していくに当たっての質問等、数々あった。

全校の中学校の生徒が質問する中で、学びが多かったのではないかと感じた。ただ、質問したときの答弁が議会の体制を取った形で、わかりました、ありがとうございますと返事をしているが、果たして、そこまですとんと落ちたのだろうかとは思う。再質問があつて、再々質問がしたいのではないかと思つたが、限られた時間の中で整然と行っていかなければならないことも考えると、大多数の方々がきちっと立派な答弁を考えて、学びの場をつくってくださったのは、とてもよかった。子どもたちも、議会について、鎌倉の市民として、生徒として、どういうことを学んでいこうかということ芽生えさせてくれたのではないかと思つた。

みんなで輝いて暮らせるまちづくりに努めると宣言していたが、未来に育っていく子どもたちを育む意味で、非常に大事な子ども議会であつたと感じた。多数の方々が大変ご努力くださったことに感謝申し上げて、子どもたちのいい勉強ができたという手応えを感じている。

下平委員

同じく、非常に幅広い視点からの素直な疑問と提案、それから鋭い指摘などに、改めて私も考えさせられたり、気づかされたりするところが多かつた。

視点は違うが、横浜国大付属の鎌倉中学校の生徒さんもいらして、マナーにのっとりたお辞儀が一際きれいだった。そういうところをしっかりと躡けていらっしゃると感じた。

いい経験を中学生たちができてすばらしい場だと感じた。あの中から将来の立派な鎌倉市議が誕生するのではないかと、非常に感動しながら感銘を受けて参加した。

山田委員長

神奈川県市町村の教育委員会の有志で構成されている東日本大震災被災地子ども支援実行委員会、きずなブックというものが被災地に本を寄付する活動を続けている。こちらも引き続き活発に活動していて、最新の情報では52カ所に2,348冊の本を届けたということである。各学校、教育委員会から大変感謝されているのと同時に、引き続き必要としている学校が多数あるので活動を続けていきたい。

(2) 教育長報告

特になし。

(3) 課長等報告

報告事項ア 「かまくら教育プラン」平成25年度取組状況について

教育部次長兼教育総務課担当課長

「かまくら教育プラン」とは、子どもたちが安心と安全が保たれた社会環境のもとで、夢や希望をもって自主的に学び、民主社会の一員としての自覚を高め、伸び伸びと健やかに成長できるように導くことを目指し、鎌倉市の学校教育について5つの基本方針と方針ごとの目標を定めたものである。その教育プランに基づき、小・中学校や市、関係機関がどのような取り組みをし、どのような成果や課題があるかをまとめたものが「かまくら教育プラン平成25年度取組状況」である。

平成25年度のまとめ方は、昨年同様に、5つの基本方針に基づく17の目標に対し、具体的にどのように取り組んだかについて、各学校及び教育委員会、市長部局の各課に調査し、その回答をまとめている。資料のまとめ方について、1ページからの基本方針1-1「子どもたちが教師や友人との信頼関係を築き、楽しく活気ある学校生活を送れるよう取組を進めます」を例に説明する。

資料1ページ、〔小・中学校における主な取組〕の表だが、昨年度は、小・中学校の75%以上が取り組んだものを掲載していたが、掲載する基準を見直し、今回の平成25年度取組状況では、小・中学校の90%以上、ほとんどの学校が取り組んだものを掲載した。また、90%に達しなかったものの、多くの小・中学校が取り組んでいたものは〔小・中学校における特長ある取組〕として掲載している。目標1-1には該当がないが、3ページの目標1-2では、〔特長ある取組〕をいくつか掲載している。2ページに戻り、平成25年度に始めた新たな取組は、成果や課題と併せて〔小・中学校における平成25年度の取組〕に掲載している。教育委員会や市長部局、関係機関が取り組んだ内容は〔市や関係機関における取組〕に掲載している。目標1-1にはないが、新たに掲載した取組は、例えば14ページの一番下、鎌倉市いじめ相談ダイヤルにあるように（新規）の記載をしている。基本的には、一つの目標に対し、主な取組、特長ある取組、平成25年度の取組、市や関係機関の取組という四つの表で記載している。

それでは、平成25年度の新たな取組を中心に特長的な点を何点か説明する。

2ページ表の一番下、小中一貫教育検討委員会の取組として、鎌倉市教育課程編成の指針を作成した。7ページ一番上の表、学年を越えた読み聞かせなど、読書活動の取組に対し、読書をする児童が多くなり、さらに進めていく必要があるとしている。11ページ中段の表、湧水の活用など、学校の特長を活かした取組を行っている。14ページ一番下、教育センター相談室にいじめ相談室を設置し、いじめの予防や早期発見に努めた。17ページ中段の表、公立学校の教員による出前授業を実施し、進路学習の時間として有効だった。19ページ一番下、ジュニアスポーツ栄誉表彰、併せて22ページ下から2行目、ゆめひかる文化芸術子ども表彰、こちらの二つの表彰を新設し、頑張った子どもたちを支援した。

教育委員会としては、〔小・中学校における主な取組〕を今後も継続していくこと、〔特長ある取組〕の取組率を向上させ多くの学校で実施していくこと、〔平成25年度の取組〕に掲載されたものを単年度で終わらせず、次年度以降も継続して取り組んでいくことが重要であると考えている。単に取組を調査して終わるのではなく、これを基に各学校で地域の特性を活かした取り組みを工夫し、教育委員会も必要な支援を考えていきたいと思う。

（質問・意見）

下平委員

目標1-1に関して、教師や友人と子どもたちが信頼関係を築き、楽しく活気ある学校生活を送れるよう取り組みますとあるが、子どもたちは生まれたときには、自分と人を信じる力とか、楽しく笑顔で活気あふれる生き方ができる力を持って生まれてきている。大事なものはそれをなくさないために、親はもちろん、先生方が信頼できる姿を示すこと、そしていきいき活気ある働き方、生き方ができていることが何より大事なのではないか。

先日、日経新聞にも掲載されていたが、新任の先生方で体調を崩す方が多く、メンター制度を取り入れると。それらに関しては、それぞれの地域に任されているという記事だった。初任者という新人の人たちが、力ある先輩とか上司に物を言うというのは物すごくパワーの要ることで、そう考えると、上にいる人たちがしっかりと見ていくことがとても大事だと思う。カウンセラーに相談を求めるとか、体調を崩して休ませてくださいとなったときは、かなり手遅れの状態だと思う。

日ごろ忙しいとは思いますが、しっかり目を光らせるとか、いろいろなことを言い合える、相談し合える学校現場をつくるとか、そういうことをこれから手厚く考えなければいけない時代になっていると思う。

社会や時代が変わり、先生方も厳しい状態に置かれている。今までどおりではなく、風通しがよく、お互いが目を配れるような状況をつくるためにどうしたらいいかという取り組みも必要なのではないだろうか。

山田委員長

13ページの小中学校における主な取組の中で、高齢者や乳幼児とのふれあいが行われているとあるが、核家族化が進む中で、自分と違う世代との交わりがないお子さんもいらっしゃるのでは、これは非常にいいことだと思う。我が子も老人ホームにボランティアに行ったこともあるが、帰ってくるととても優しい子になったりして、とてもいいことだと思っている。

(報告事項アは了承された)

報告事項イ 平成27年度鎌倉市立小学校及び中学校の児童・生徒数及び学級数の推計について

学務課担当課長

平成27年度の鎌倉市立小学校の普通学級の児童数は7,981人で学級数は247学級、また、特別支援学級は86人、23学級で、合わせて8,067人、270学級と推計した。平成26年の5月1日現在の数値と比較すると、児童数は13人の増加となり、また学級数は、小学校1年生の35人学級編制、それ以外は40人学級編制の場合の標準学級での比較では、1学級の減となる。

次に4ページ、市立中学校の普通学級の生徒数は3,404人で、学級数は98学級、また、特別支援学級は56人、16学級で、合わせて3,460人、114学級と推計した。小学校と同様に、平成26年の5月1日現在と数値と比較すると、生徒数は13人の増加、学級数は1学級の増となる。

各小・中学校の児童生徒数、学級数については、お手元の資料のとおりである。

(質問・意見)

下平委員

本当に大きな変化なく、推移しているのだと感じる。小学校が8,067人で、中学になると3,460人。小学校の入学数の想定がつくというのはわかるが、中学については私立に行く学生も想定しているのか、これは何らかの調査で把握して数値が出ているのか。

学務課担当課長

中学校については進学率も考慮して、ここ数年の進学率を出して、それを掛けている。今回の推計に当たっては平均の進学率を73%として計算をして、新1年生の数を出している。

下平委員

了解した。

(報告事項イは了承された)

報告事項ウ 「かまくらっ子の意識と実態調査」第10集について

教育センター所長

鎌倉市教育センターでは、昭和57年以来、「かまくらっ子」の意識と生活実態を探るために、3～5年ごとに調査・研究を行ってきた。この調査により、鎌倉市内に在園・在学する幼児、児童生徒の生活の様子や意識を把握し、過去の調査と比較検討しながら、今後の子どもたちの健全な育成のために、参考になればと考えている。

その研究の具体については、第10集2～3ページ「1 研究の概要」「2 研究の目的」「3 調査の対象・方法・時期」として掲載した。調査の対象は、鎌倉市内の市立保育園6園、私立幼稚園11園、市立小学校5校、市立中学校3校にお願いし、内訳、対象者、その人数は2ページの表のとおりである。

戻って、目次には質問項目が書いてある。幼児については5項目、児童生徒については記載の17項目について調査した。特に、今回の研究では、次の2点について新たに取り組んでいる。

ここ数年、情報機器の進歩に伴い、子どもたちが使う情報機器にも大きな変化が見られ、生活にも大きな影響があると考え、携帯電話やパソコンについての問い方を変更した。また、子どもの自己肯定感が低いことが課題として取り上げられている現状を踏まえ、児童生徒に関する調査項目と自己肯定感についてのクロス集計を行い、毎日の生活と自己肯定感の関連性について調べてみた。

続いて、冊子の構成について説明する。結果のまとめについては、問ごとに結果をグラフに表し、ここ数回の調査で特徴的な変化が見られるものや、課題となっている内容について、経年変化の表を作成した。また、それぞれ考察については、項目ごとに行った。

今回初めて行った「自己肯定感との関連」のクロス集計の結果を記載してある。「(16)の項目の「自分について」の(ア)の間、「自分のことを考えて、自分の良いところを見つ

けられますか」という問いに対する回答から、自己肯定感に対する「肯定群：自分の良いところが見つけれられる」と答えたグループと、「不明群：自分の良いところがわからない」と答えたグループと、「否定群：自分には良いところがない」と答えたグループに分け、他の項目との関連性を調べた。

例えば、101ページの表の「(ア) ふだんの生活の中で自分からあいさつしますか」の問いとの関連だが、肯定群、いわゆる自己肯定感が高い児童生徒ほどよく挨拶をするという、有意な関係が見られるという結果が出ている。具体的に説明すると、肯定群については「いつもする」が123名、「ときどきする」が91名、「あまりしない」が6名、「まったくしない」が2名。これに対して、否定群の中では挨拶を「いつもする」が10名、「ときどきする」が15名、「まったくしない」が2名となっているが、これらの数値を統計学的にある χ 二乗検定として計算すると有意差があるとのことで、助言・指導の先生からご意見が出ている。

そのような結果について、102ページ以降に同様に自己肯定感と家での片付けや友達の数、毎日の生活が楽しいかについて、有意な関係があるという結果が出ている。

続いて、107、108ページには、今後の課題について、子どもたちが生活する場「保育園・幼稚園」「学校」「家庭」「地域」の4つの項目に分けてまとめた。鎌倉の子どもたちは、前回の調査と同様に、楽しい分かる授業を望んでいるということが分かった。また、勉強ができるようになりたいと望む児童生徒の割合も高い結果が出た。今回の調査では、前回よりも家庭学習の取り組みについてもプラスの結果が出ている。このような状況から、子どもたちの実態に合った授業作り、更なる授業改善を図っていく必要があると考える。

また、いじめについては、自分自身がいじめたことがある、自分が誰かからいじめられたことがあると回答した児童生徒が、ともに前回調査より低い割合となるプラスの結果が出た。これは、各学校におけるいじめ防止の取り組みが成果を出していると考えられる。

今後も学校生活の様々な場面で、他人との関係性や集団作りを通して仲間意識の醸成など、コミュニケーション能力や社会性の育成を図り、良好な人間関係作りを進め、楽しい学校づくりに取り組むことが重要であると考えます。

この調査結果は、市内の市立全小中学校、幼稚園、保育園、子どもの育成に係わる関係の市長部局、議会事務局に配布している。

この調査が、子どもたちの「生きる力」を育む環境づくりに活かされればと考える。

(質問・意見)

下平委員

心というのは感情、思考、行動の総合体で、要するに感情や思考や行動が動いていれば、心も体も活性化した状態になる。人との関わりの中で私たちは感じ、思考し、行動し、コミュニケーションが活発である家や地域では、お子さんの自己肯定感が育つ。例えば13ページや15ページにある、遊ぶ場所や休日の過ごし方を見ると、自分の家や友だちの家が非常に多い。社会環境、地域環境の変化で、公園や外で遊ぶ場所が少なくなり、自然環境も少なくなってしまったので当然のことだが、経年変化で比較すると、自宅で過ごす時間が増えているのではないかと思う。ここに関しては経年変化がないので、その辺も今後調べていただけるといいという気がする。

動いている子は、地域でもお祭りに出るだろうし、友達ともよく遊ぶだろう。逆に、引きこもって部屋でゲームだけやっているようなお子さんに関して、心配なところがあると思う。今後の課題だと強く感じた。

自己肯定感との絡みで、いろいろ調べていただいて参考にもなったし、今後もよろしくお願ひしたい。

齋藤委員

きめ細やかな調査、よい考察であり、嬉しく思う。楽しく分かる授業を望んでいるというのは、確かにそうだと思う。教員も、自分が研究し、こんな形で指導していこうとしたときに、分かる授業に展開できる。子どもの輝く目があると教師も輝くし、教師が笑顔であれば子どもも笑顔になれる。

私も授業を見に行くことが多いが、先生が暗い顔をして授業をしていると、大抵が停滞状況、または子どもが早く終わらないかと時計を見てしまう。そういう状況が、鎌倉市ではないが見受けられるので、そんなところを強調してご指導いただけたらと思う。

いじめについて、いい傾向が出ているということが非常に嬉しいと思う。何かの一言で傷つく子どもをどれだけ救えるかということ、先生方はしっかり考えている。辛いときにたった一言やちょっとした視線でその子が救われることも多いと思うので、それについても強調していただければ、よりよくなるのではないかと思う。

朝比奈委員

いろいろな調査の方法があるものだと思って感心している。鎌倉の児童生徒、お子さん方は、どういう環境にお住まいなのか。プライベートなことだが、例えば戸建ての住宅であるのか、集合住宅なのか、一人っ子なのか、兄弟が多くいるのか、そういうのはどこかで分かるところはあるか。

教育センター所長

子どもの生活環境までの調査項目はないので、そこは分からない。

朝比奈委員

つまり、こういう資料とは種類が違う調査になるということか。

教育センター所長

今のお話でいくと、兄弟の数とか、家族状況というのはまた違う部分での調査で、今回の調査は、学校の子どもたちに対する項目の質問だけなので、そこは見えてない。

朝比奈委員

遊ぶ場所に関して、家だとゲームか漫画でも読むのだろうと思う。近くにある大きな公園やお寺の境内で遊ぶとか、大きなお屋敷にお住まいで自分の庭で十分遊べるとか、家の後ろの裏山で遊べるとか、そういう環境によって、子どもの遊び方はもしかしたら変わってくるのかもしれない。ただ、私が子どものときと違って、やたらと山に入るのは学校で禁止する

など、安全が優先されて禁止されていくと、公園でボール遊びもできない。

視点がずれているのかもしれないが、ゲームセンターに行くなど、子どもの遊び方が変わってしまう原因は、自由を奪われてしまっていることもあるのではないかなと気になったのでお伺いしたところである。

安良岡教育長

友人についてというところで、アンケートだからこう書いてしまったのかという気もするが、特に小学校3年生で、友達が誰もいないと答えている子がいるという辺りは、学校の大きな課題だと思っている。

いじめたこと、いじめられたことの経年変化の表を見ると、それぞれ減ってきてはいるが、いじめたことがある、いじめられたことがあると答える子どもたちがまだいる。それは、今後も引き続き、学校の大きな課題として取り組んでいかなければいけないと思う。

それから自己肯定感との関連で、地域活動への参加のところ、小学校3年生は有意差あり、小学校6年生は認められずとなっているが、数字を見るとそんなに大きな違いはなさそうに見える。どんなところでこういうことになったのか、教えていただきたいかなと思う。

教育センター所長

この自己肯定感のクロス集計については、横浜国大の山本光先生の助言を受けている。統計学的な式により求めた数値から、有意差あり、なしという判断をするという χ^2 乗検定で出している。一つの質問項目の数字と、別の質問項目の数字の変数と関数をその式に入力すると計算ができて、出てきた数字の大小によって、有意差が出てくる。

この計算においては、数字上は大きな違いがなくても、不等号の状態によって小学校6年生だけが有意差なしという結果となった。この数字をどう捉えるかについての考察はないが、私が勝手に推測すると、小学校6年生は地域活動には出られない別の忙しさがあるという捉え方がある。自己肯定感があるということで、単純に言えば有意差が出るが、6年生だけがそうならない実態をどう捉えるかというのは、いろいろな推測ができ、小学校3年生や中学校2年生と違う現状が出てくる。そこからの仮説的な推測により見えてくる部分はあると思っている。

安良岡教育長

本当にごくわずかな数値の違いで、こうになってしまうのだと思うが、そういう部分は意識したほうがいいかと思った。

下平委員

なりたい職業について、私が子どものころは、先生になりたいという生徒がとても多かったと思う。99ページでは、テレビの影響か、男の子はスポーツ選手で、女の子は芸能関係となっているが、フリーターでアルバイトをしてお金を稼ぎながらやっている人も多いので、この傾向を見ると、今後ますますフリーターが増えていってしまうのではないかという不安もある。学校教育の場面で、いろいろな職業の楽しさや魅力、すばらしさを伝え続けていかないと、この傾向は今後ますます広がってくるのではないかと強く感じるので、その辺も教

育の課題だと感じた。

山田委員長

このアンケートの回答率は、どのぐらいか。

教育センター所長

それぞれの質問項目について、回答率というのは出してない。2ページの表の中に、男子244名、女子208名、調査452名とある。

この質問については答えてなかったのは何名いたという統計上の資料はここに載せてないが、集計の仕方は、1人の子がどういう回答をしているか、例えば、問1のアは1、問2のアは2…というのが表になっていて、それが四百何名だから延べで五千何人分の回答を入力すると、数値が出るようになっている。相当な作業だが、その中で、これは答えてないというのを集計すれば回答率は出てくるとは思うが、そこまでの掲載はしていない。見ると、ほぼ答えてはいるという捉え方で集計をしている。

山田委員長

そこまで細かくしなくていいが、調査が必要かもしれない子どもが答えてないというケースがないか、要するに問題のない子は問題なく答えていくと思うが、ちょっと悩んでいる子が、もしかしたら答えていないことがあるのかなと心配してお聞きした。

教育センター所長

統計学的に言うと、サンプル数がこの人数であれば、確率的に全体の集団との関係性でいくと、95%の確率で傾向が分かると、国大の山本先生からの助言で確認している。毎回、大体このぐらいの人数で、その都度、統計学的なものを調べながらやっているというところである。

山田委員長

日本語は、良いことでも謙遜する風習、言語でもあると思うが、発表会の時などに親の謙遜の言葉を聞いた子どもが、自分は一生懸命やっているのに対して親がそれを否定しているように捉えてしまうことがある。親が気づかないところで、例えば、受験に合格してもまぐれですからとか、心にもない否定につながる言葉を発していると思う。小さいころは、それが謙遜なのか、本当に親がその程度だと思っているのかというあたりは、計れないところもあると思うし、無駄な謙遜をするぐらいなら褒めてあげたほうがいいだろうと、最近反省している。

(報告事項ウは了承された)

報告事項エ 行事予定(平成26年8月13日～平成26年9月30日)

教育部次長兼教育総務課担当課長

夏休みの子どもの対象とした講座の他、鎌倉市中学校音楽会、授業力向上研修会、その他教職員の研修も夏休みを利用して行われる。その他、記載のとおり行事を予定している。

(質問・意見)

安良岡教育長

生涯学習センターの情報セミナーは午前と午後に2回あって、これは市民の方から、もっと夜もやってほしいとか、要望はいろいろか。

教育総務課課長補佐

夜間の開催要望の声は届いていない。毎回、非常に好評で参加者は多く、今のところ、昼間の開催でやっていきたいと考えている。

安良岡教育長

文化財課の遺跡調査研究発表会について、多くの市民から、こういう遺跡調査の発表会を希望する声をよく聞く。市民の方向けには、開催について既にお知らせしていると思うが、もう一度、もし何かあったら、大々的に周知いただければと思う。何かPRするところがあればお願いしたい。

文化財課課長

遺跡の調査速報展については、チラシの配布も各学校にお願いしている。8月24日と期間が迫っているので、ホームページ等での紹介を今後も続けていきたいと考えている。

山田委員長

この国宝館の「ミホトケをヒモトケ！」は、去年、我々が視察に伺わせていただき、とてもいい展示であったが、内容は同じか。

鎌倉国宝館副館長

内容については、基本的に同じで開催している。ただ、今年は新たに展覧会向けに、『鎌倉国宝館直伝！仏像のキホン』という本も、有償ではあるが販売を開始した。そちらも併せてご覧いただくと、より立体的に展覧会をご鑑賞いただけるのではないかと考えている。

また、外国人向けに英語の収蔵名品目録等も販売を開始しており、より多くの方々に深くご理解いただける形で対応させていただいている。

山田委員長

子ども向けの冊子で、いろいろな仏像の紹介があり、私どもにも分かりやすくよかったと思う。

(行事予定報告はそれぞれ了承された)

2 議案第 20 号 教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

山田委員長

日程第 2 議案第 20 号「教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について」を議題とする。議題の説明について、願います。

教育部次長兼教育総務課担当課長

教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検及び評価については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 27 条により、毎年これを実施することとしている。本年度も所定の手続を踏み、このたび「平成 26 年度教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」として報告書がまとまったことから、その内容を説明させていただき、ご審議いただくものである。

まず、点検・評価の方法等について説明する。点検及び評価は、鎌倉市において毎年度実施している「事務・事業評価」の中から、各課において重要であると位置付けている事業を対象とした。また、法第 27 条第 2 項に「教育委員会は、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。」とあることから、3 名の方々に外部委員をお願いした。教育分野を専門とする大学教授と保護者の立場から P T A の代表である。

外部委員による点検評価会議は、7 月 8 日、7 月 29 日の 2 回実施した。なお、昨年度と同様、第 1 回目の会議の開催に先立ち外部委員及び教育委員に資料を送付した上で会議に臨んだ。

報告書の内容について説明する。5 ページ及び 6 ページには、教育委員会の事務事業 44 事業の一覧を記載した。この中から、教育委員会が平成 25 年度に重点的に取り組んだ事業として点検・評価の対象とした 13 事業を 7 ページに記載した。

8 ページ以降は、その 13 事業について、事業ごとに、「現状」、「平成 25 年度に行った事業の概要」、「事業の成果」を記載し、今後の課題として教育委員会の内部評価を記載した。

なお、各点検・評価シート中、「● 評価委員の意見等（外部評価）及び意見等に対する市の考え方・対応策」欄が、今回点検・評価した内容である。

なお、外部委員からの意見に対する市の考え方・対応策は、意見の後に矢印にて記載している。

「教育委員会運営事業」を例に説明する。評価委員から、「教育委員会としては、学校訪問に際し、各学校ごとの課題を把握し、その解決・改善を図る方向性を明確に打ち出すことを期待したい。」との意見をいただいた。これに対し、市の考え方は「実際に現場に足を運ぶことで、学校の様子や校長・教頭の考えが分かり、各学校が抱えている課題の把握につながっている。今後は、把握した課題の中でも教育委員会としての対応が必要な課題を抽出し、対応方法を検討していきたい。」としている。「社会教育運営事業」「生涯学習センター管理運営事業」等の事業についても、同様に「●」で記載している。シートによっては、間に参考資料を添付している。

この点検・評価については、本日審議をいただいた後、市議会9月定例会の教育こどもみらい常任委員会において報告するとともに、教育委員会のホームページへの掲載や、報告書を市施設に置くなどして、市民へ公表していきたいと考えている。

(質問・意見)

安良岡教育長

小中一貫教育の推進について、27年度からの全校、順次実施に向けというところで、今年度は指針を提示するという内容になっている。特に教育指導課で今年度、この小中一貫教育の部分で力を入れていきたいところがあったら、ご紹介いただけたらと思う。

教育指導課長

鎌倉市における小中一貫教育ということで、小中連携を強化していきたいというのが基本的な考え方である。また、点検評価の中にもあるように、昨年度、今年度、2年かけ、大船中学校校区で推進地区、推進校を設置している。その中で、昨年度、1年間は組織をどういうふうに作っていくのか、今年は2年目として具体的な活動、取り組みを進めていただいている。鎌倉市教育課程編成の指針の中に、学校で参考にさせていただく資料として、具体的な事例や推進校で行った内容、そういった例示を盛り込みながら作成している。今年の12月ぐらいいまでは完成していきたいと考えているので、11月定例会で内容について提示する予定である。

また、その中に推進校の取り組み等の掲載もあるので、そういったところを中心に、これは4月から一斉にということではないが、27年度1年かけて、順次それぞれの中学校区で進めていく準備をしている。

安良岡教育長

もう一点、永福寺の件について、27年度、こちらの仮オープンを目指していて、特に、仮オープンに向けた今年度の取り組み、こんなところに今年度は力を入れていきたいところをご紹介いただければと思う。

文化財課担当課長

平成27年度末の仮オープンを目指して、26年度については、縁池の半分の整備と、遣り水の整備、北の緑道の整備を予定しているところである。

下平委員

外部委員の方のご意見等も聞きながら、いろいろと新たに工夫してくださっていることが分かりやすくまとめられて、ありがたく思う。

一つ疑問なのは、外部の評価委員の方が見て、ここが足りないのではないかというご要望をいただき、それを今年度、次年度、取り入れていくと、どんどん膨れる気がする。

例えば教育委員の仕事一つにしても、もっと学校を頻繁に見なさいということになれば、仕事は増えていく。時代の流れの中で、少なくともいいのではないかと言うと変だが、そ

ういうものは評価委員から意見は出ていないか。

教育部次長兼教育総務課担当課長

外部評価委員の皆様からは、特にそういった意見はないが、たまたま今年度、実施計画の見直し作業が行われたので、来年度の報告については、新たな実施計画に基づいて、事業の選択等も変わってくるのではないかと考えている。それについても、外部評価の皆様の見見もお伺いしながら、整理をしていきたいと考えている。

山田委員長

評価委員のご意見の中で、生涯学習センターの事業が、その内容とともに質が問われるというご指摘がある。どのようにセンターとして精査しているのか。

教育総務課課長補佐

生涯学習センターの事業については、生涯学習推進会に委託している。その中で、いろいろ市民からのアンケートなどをいただきながら、その結果を踏まえて検討をして、次年度の事業に反映をさせている。

事業計画に当たっては、その時代、そのときの課題なども取り込んで、講座の企画も我々と推進会で協議をしながら進めているところである。

山田委員長

ここにある入場者数という数字も大切だが、その内容についてご指摘いただいているという背景には、内容あるいは質に疑問を感じられるものがあるのか、どのようなことからこういった指摘が出ているのか分からないが、委託をするにしても、内容の精査は委員会ですていくことが大事だというご指摘はそのとおりでと思う。

(採決の結果、議案第 20 号は原案どおり可決された)

3 議案第 21 号 市有地管理に起因する事故による市の義務に属する損害賠償の額の決定について

山田委員長

日程第 3 議案第 21 号「市有地管理に起因する事故による市の義務に属する損害賠償の額の決定について」を議題とする。議案の説明について、願います。

学校施設課長

本件は、平成 26 年 6 月 17 日、鎌倉市笹目町 437 番の御成中学校敷地内で発生した倒木により隣接する民家の建物等が損壊した事故について、相手方の損害を賠償するものである。

損害賠償の額及び相手方については、記載のとおりである。

建物等の修理費用として、392,580 円の支払い義務があることを認め、損害賠償の額の決定

についてお諮りする。なお、損害賠償金の支出にあたっては、地方自治法第 96 条第 1 項第 13 号の規定により、市議会の議決が必要となることから、本議案をご承認いただいた後に、市長に対し、鎌倉市議会 9 月定例会に本件損害賠償に係る議案の提出について申入れを行うこととする。

(質問・意見)

特になし。

(採決の結果、議案第 20 号は原案どおり可決された)

山田委員長

そのほか、委員の皆様から何かあるか。

下平委員

「かまくらっ子」というすばらしい冊子ができて、これを今後どのような形で、どういうところに配るとか、発表するとか、そういうことを聞きそびれたかもしれないので、確認させていただきたい。

教育センター所長

市内の全小中学校、幼稚園、保育園全部、それから育成関係の課、また情報提供という形で議会関係にもお配りする。その後の活用については、ここから見えてきた課題等について、研修や研究の際に、学校でこういう課題があるとお話しさせていただき、それぞれの分野の中で、その解決に向けて取り組んでいきたい。また、来年の事業計画等についても、これを参考にしながらやっていければと考えている。

下平委員

一般の保護者や地域の方など、そういう方が目にする場はあるのか。

教育センター所長

一般の方への閲覧という形では配布してないが、学校に配っているので、PTAとか、懇談会等の役員の方が活用するという形にはなっている。一般のところまでは、今までは対応してないのが現状である。

下平委員

可能なら、PTAの方、保護者の方がお集まりになる場面で、校長先生から、例えばアンケートのとき、保護者の方も興味を持ってらっしゃると思うので、こういう結果が出てきました、こういう傾向もあるようだ、こういうことが課題だと、今後も取り組んでいきますみたいなことを言う場があったらいいと思う。

教育センター所長

校長会等では、こういう結果が出て、各学校で活用してくださいというお話は、今後、機会あるたびに話をしていきたい。市全体の課題と、そこから見えてくる自分の学校の課題等についてのお話は、各学校でPTAの役員会や運営委員会、懇談会などでご活用くださいという話はしていきたいと思う。

山田委員長

先ほどの冊子に付随して、携帯電話の項目を見ると、非常に所持率が高い。各学校で、中学入学時とか、何かの節目に必ず生徒全員に対して、正しいIT教育を実施していただけたらと、保護者の立場から願う。

教育指導課長

現在、学校もこの課題については非常に重要と捉えており、例えば、夏休みに入る前に各家庭、各児童・生徒に夏休みの過ごし方の指導をする。プリント等もつくるが、そういう中に最近はず携帯、スマホ、インターネット等々の話題も載せている。また、各学校で、例えば携帯、スマホの事業者から扱い方の講座を児童・生徒向け、またはPTAが主催をして保護者向け、中には児童生徒と保護者一緒に聞く場面とか、そういった取り組みもしている。

中学校では、技術・家庭科の技術分野で、情報教育とか、道德のところでは情報モラルという視点、さまざまな切り口で、子どもたちに指導をしているが、やはり大事なのは大人、教職員、保護者にも同じ知識を持っていくということである。さまざまな取り組みを教育センターの研修会等も含めてやっているのだから、さまざまな機会、児童・生徒指導の担当者会、そういったところで今後も話題にしながら、進めていきたいと思っている。

山田委員長

実際のマニュアルというか、操作の仕方について、親子で聞く必要があると思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。

以上で本日の日程は全て終了した。これで8月定例会を閉会とする。